



1

- ・ 古琉球
 - ・ 真珠湊碑文…石門の西のひのもん (1522年)
 - ・ 添継御門の南のひのもん (1546年)
 - ・ やらざもりぐすくの碑 (1554年)
 - ・ 浦添城の前の碑 (1597年)
 - ・ 近世期
 - ・ 『久米仲里間切旧記』 (1703年ごろ)
 - ・ 『琉球国由来記』 (1713年)
 - ・ 『久米具志川間切旧記』 (1743年)
 - ・ 『聞得大君加那志様御新下日記』 (1840年)
 - ・ 近代期
 - ・ 田島利三郎『琉球文学研究』 (大正13年)
 - ・ 加藤三吾『琉球の研究』 (明治39年)
 - ・ 島袋源七『山原の土俗』 (昭和4年)
 - ・ 現在
 - ・ 『南島歌謡大成 1 沖縄篇上』
- など
- 2020/12/2

2

真珠湊碑文 (石門の西のひのもん)

首里の王おきやかもいかなし天のみ御み
事にま玉みなどのみちつくりはしわたし
申候時のひのもん

嘉靖元年みつのへむまのとし四月九日き
のとのとりのへにきこゑ大ききみ／＼
のおれめしよわちへまうはらいの時に御
せゝるたまわり申候とよみもりよそいも
りおくのみよくことまりにま玉はしく
にのまたやわたしよわちへつかしよわち
へたしきやくきつさしよわちへあさかか
ねとゝめわちへみしまよねんみくによね
んとゝ御ゆわいめしよわちや事千人のさ
とぬしへあくかへそろて御はいおかみ申
候このはしはくにあんしけすのため又
世の御さうせのためねたてひかわ又と
よみくすく此くすとみつのかくこのた
めに一はんのさとぬしへあくかへはは
らしまおそい大さとちへねんさしきわま
玉はしおわたり下しましりともにかきの
はなちにせいそろい 天三十三天地八十
八天あかめたてまつり候て三百人そうた
ちはしくやうの御ゆわい申候

此すみのことは三人の世あすたへ
まかねたるくにかみの大やくもい
まうしかねかうちの大やくもい
たるかねもいたくしの大やくもい

2020/12/2

真珠湊碑文 (石門の西の碑の文)

首里の王おきやか思い加那志天のみ御み
事に、真玉湊の道造り橋渡し申し候時の
碑の文

嘉靖元年壬午の年、四月九日乙酉の日
に、聞得大君、君々の降れ召しよわちへ、
野祓いの時に御せゝる給わり申し候
豊見杜、世添い杜、奥の滯、雲子泊に、
真玉橋、国のまたや、渡しよわちへ、つ
かしよわちへ、たしきや釘 つさしよわ
ちへ、あさかかね 留めわちへ、御島よ
ねん、御国よねん、てゝ御祝いめしよわ
ちや事、千人の里之子部、あくか部、揃
て御拝おがみ申し候
この橋は、国の按司、下司のため、又世
の御想ぜのため、ねたて樋川、又豊見
城、此城と、水の格護のため、一番の
里之子部、あくか部、南風原島襲い大里、
知念、佐敷は、真玉橋を渡り下り、島尻
共に垣花地に勢ぞろい
天三十三天、地八十八天、崇め奉り候て
三百人僧たち橋供養の御祝い申し候

此すみの言葉は三人の世あすたへ
真金樽国頭の大親雲上
真牛金幸地の大親雲上
樽金思い沢岬の大親雲上

2020/12/2

真珠湊碑文（石門の西の碑の文）

首里の王おきやか思い加那志天のみ御み
事に、真玉湊の道造り橋渡し申し候時の
碑の文

嘉靖元年壬午の年、四月九日乙酉の日、
に、聞得大君、君々の降れ召しよわちへ、
野祓いの時に御せゝる給わり申し候
豊見杜、世添い杜、奥の滯、雲子泊に、
真玉橋、国のまたや、渡しよわちへ、つ
かしよわちへ、たしきや釘、つさしよわ
ちへ、あさかかね、留めわちへ、御島よ
ねん、御国よねん、て、御祝いめしよわ
ちや事、千人の里之子部、あくか部、揃
て御拝おがみ申し候
この橋は、国の按司、下司のため、又世
の御想ぜのため、ねたて樋川、又豊見
城、此城と、水の格護のため、一番の
里之子部、あくか部、南風原島襲い大里、
知念、佐敷は、真玉橋を渡り下り、島尻
共に垣花地に勢ぞろい
天三十三天、地八十八天、崇め奉り候て
三百人僧たち橋供養の御祝い申し候

此すみの言葉は三人の世あすたへ
真金樽国頭の大親雲上
真牛金幸地の大親雲上
樽金思い沢岬の大親雲上

2020/12/2

真珠湊碑文（石門の西の碑の文）

とよみもり
よそいもり
おくのみよ
くもことまりに
ま玉はし
くにのまたや
わたしよわちへ
つかしよわちへ
たしきやわちへ
つさしよわちへ
あさかかね
とよめわちへ
みくしまよねん
みくしまよねん

豊見杜
世添い杜
奥の滯
雲子泊に
真玉橋
国のまたや
渡しよわちへ
つかしよわちへ
だしきや釘
つさしよわちへ
あさかかね
留めわちへ
御島よねん
御国よねん

2020/12/2